

# 通信の未来を拓く学生論文特集の発行にあたって



通信の未来を拓く学生論文特集編集委員会

委員長 塩川 茂樹

「開く」と「拓く」の違いはなんだろうか。前者では“ひらく”対象が既に存在しているのに対し、後者ではそれが存在しない。手偏に石という字のつくりの通り、手に石を携えて何も無いところを切り“拓く”のである。ここでいう石とは単に道具を指すだけでなく、知識や経験といった目に見えない力も意味している。新しい世界を拓くためには、各々が“石”に相当する力を身に付け使いこなすことが必要なのである。

通信技術の分野は先人達によって広く拓かれ続けてきた。しかし未だ拓かれていない技術領域は存在するのであろう。通信技術の未来における新たな領域を開拓するのは、現在の学生諸君を含む若手の研究者・技術者である。彼らには研究を通して未来を拓くための力を十分に身に付けて欲しいものだが、優れた研究成果を挙げながら、論文執筆の機会を逃している方も多くいることと思う。これは本人の成長にとっても通信技術の未来にとっても大きな損失である。

学生のための論文特集は、2009年度より和文論文誌編集委員会が企画しており、今年度は通信の未来を拓くという名のもと、12回目の特集となる。今回もこれまで同様、特集テーマとして技術分野を絞ることなく広く通信技術全般を対象とし、筆頭著者が社会人博士

課程を含む学生となる論文を募集した。本特集に投稿された論文数は論文16編であり、厳正なる審査の結果、最終的に論文8編を採録とした。また採録された論文のうち1編を優秀論文賞として表彰することとした。

最後に、本特集の発行にあたり、御投稿頂いた学生諸君、論文査読に御尽力頂いた査読委員の方々、ならびに事務局の方々に深く感謝する。判定にあたっては、公正な採否の判断は当然であるが、通知文の作成にも注意を払った。特に編集委員の皆様には、条件付採録或不採録についてのコメントを学生にとって今後の糧となるよう心がけて作成して頂いた。ここに改めて感謝する次第である。本特集をきっかけとし学生諸君に通信技術の輝かしい未来を切り拓いてもらえれば幸いである。そして今後のますますの投稿を期待する。

しおかわ しげき  
塩川 茂樹（正員：シニア会員） 平10慶大大学院博士後期課程修了。同年名工大・電気情報工学科助手。平13年神奈川工大・情報ネットワーク工学科助手、助教授を経て教授、現在に至る。無線マルチホップネットワークの研究に従事。博士（工学）。平8本会交換システム研究会優秀論文賞受賞。平12電気通信普及財団テレコムシステム技術学生賞受賞。令和元本会通信ソサイエティ功労顕彰、平20・平26・平28・平30本会通信ソサイエティ活動功労賞受賞。

## 通信の未来を拓く学生論文特集編集委員会

委員長	塩川茂樹
副委員長	平明徳・小川猛志
委員	伊藤嘉浩・今田美幸・大津智・大津山卓哉
	鬼沢武・木寺正平・笹森崇行・佐藤輝被
	肖鳳超・鈴木一哉・武田茂樹・竹村暢康
	谷川陽祐・谷村崇仁・富岡多寿子・富木淳史
	富里繁・廣田悠介・藤原正満・不破泰彦
	丸田一輝・三上学・道下尚文・光山和彦
	山崎浩輔・山田渉